

日本大学工学部

校友会報

第65号 平成14年3月1日

目 次

ごあいさつ	2
平成13年度44回通常総会報告	3
「母校を訪ねる会」第21回を開催	4
同窓会・クラブ・その他	11
支部活動	17
若葉マーク	20
校友短信	21
日本大学工学部校友会会則	22
CAMPUS	23
平成14年度通常総会・第22回母校を訪ねる会	24



日本大学工学部正門の桜風景



日本大学工学部長

小野沢 元久

2002年の早春を迎え、校友各位の皆様には益々ご壮健のこととお喜び申し上げ、平素の温かいご支援に対しましては、心より深く感謝いたします。

去年は暗い出来事の多い一年でありました。米国の同時多発テロは、世界の「金融中枢」を一時機能不全に陥らせ、情報通信不況に追い打ちをかけるように、世界経済、そして日本経済にも暗い影を落としました。いまだ、所得・雇用環境も改善されず、日本経済の先行きは不信感・不透明感ばかりがますます強まっています。

昨今の経済のグローバル化が進む中、今は国際的に通用する人材が求められている時代です。こうしたなか、世界で通用する人材育成の一環として、昨年4月から国際工学コースを開設しました。米国のエンジニア資格P.E（プロフェッショナル・エンジニア）を目指すコースで、在学中に第一次試験にあたるF.E（ファンダメンタルズ・オブ・エンジニア）資格合格を目標に定めています。米国のP.E、F.Eを排出できる技術系大学に対して、いわばお墨付きを与える「工学技術認定委員会」（ABET）という機関があります。勝ち残れる骨太の人材を育成しているという認定を受けるわけですが、今、日本版ABETというべき、JABEE（日本技術者教育認定機構）を組織しようという動きも出ています。

これからは産・官・学の連携がより一層、重要になってくると思います。大学はこれまでの人材供給だけではなく、研究成果を社会にダイレクトに提供するという役割も求められているのが現状です。今年4月に開設するハイテク・リサーチ・センター（仮称・次世代工学技術研究センター）を核にしながら地域社会に貢献できればと考えています。現在、国内の文科省の推進事業である知的クラスター構想に基づく候補地の選定が進められており、本学のハード技術と会津大のソフト技術を融合して医療・福祉関係の新しい産業の創出を視野に入れたこの構想の拠点としての機能をこのセンターに担うこととなります。このような産・官・学の取組はベンチャー企業を育てるとともにベンチャー企業を起こせる人材を輩出し、さらにベンチャー企業が生まれる土壌をつくる育成につながっています。

最後に、校友会の益々の発展と、校友各位の皆様のご健勝を祈念し、ご挨拶いたします。

ごあいさつ



校友会長

佐藤 光正

去年は、激動の世界からたくさんの心痛むニュースが舞い込んでまいりました。中でも、国際的なテロリズムの犠牲となられた方々には、衷心より哀悼の意を捧げるものであります。また、国内に目を移せば、行政改革の声高く政界は騒然として攻守の是非は不透明、重ねて、経済活動は低調の中を彷徨っている状況です。今年こそは、少なくとも何とか先の見える年でありませうようにと、心から願って止まない次第であります。

さて、校友各位におかれましては、この不安定な世情にもめげずにご健勝にて、平成14年の新春をお迎えのことと拝察申し上げます、たいへん嬉しく存じ上げます。ご存じのとおり、今やわが国の命運をかけた教育行政の大変革が実行されようとしています。すでに日本大学は、この潮流をいち早く捉えて、学術研究、教育活動、社会への知的奉仕などの多面的な機能を充実すべく努力されているところであります。

母校工学部でも、昨年着工し今春竣工予定となっているハイテクリサーチセンターの建設は、まさにこの時流に添ったもので、工学部の成果は多いに期待されています。また、大学の変貌とともに私ども校友会でも、組織上のことや運営のことで旧来のままの方式を踏襲することが許されなくなりつつあります。大学の存続競争において、校友会活動は重要事項と目されており、早急に母校と校友会とは、校友会の在り様について深く検討し、今後の運営方針を決定しなければなりません。皆様の忌憚のないご意見を賜りたく存じ上げます。なお平成14年度の総会は、工学部のキャンパス内で開催する予定です。私は平成11年度に会長職を拝命し、3年目の13年度を以て任期が満了致します。皆様のご指導ご鞭撻には心より感謝申し上げます。有り難うございました。文末となりましたが、各位の益々のご健勝とご発展をご祈念申し上げご挨拶いたします。

平成13年度第44回通常総会報告

平成13年4月28日(土)、午後2時より、日本大学会館において第44回通常総会が開催された。佐藤会長の開会の辞に始まり、議長に川名寛章氏(土16回卒)、議事録署名人に中野伍朗氏(工化16回卒)および盛武建二氏(土17回卒)、書記に蔭山寿一氏(建28回卒)および阿部充宏氏(土31回卒)とそれぞれ選出されて議事に入った。

村田事業担当から報告第1号・平成12年度会務報告が、伊藤経理担当から承認第1号・平成12年度一般会計収支決算および承認第2号・平成12年度特別会計収支決算について報告があり、これらに対する会計監査報告が鈴木守会計監査(電16回卒)からあった。

続いて、両担当より平成13年度の事業計画および一般会計収支予算ならびに特別会計収支予算が提案されたが、これはいずれも総意を得て承認された。

次いで、佐藤会長から本会会則の改正案の提案と改正に至る主旨説明とがあり、それに対する慎重な審議がなされ、参加者全員の賛意をもって会則の改正が承認された。改正の主旨は、現行会則の現状にそぐわない条項の削除・簡略化および明確化による整理統合で、本会報・23頁を参照されたい。これにより、加藤木副会長の閉会の辞をもって総会は終了した。

総会終了後、恒例の懇親会が小野沢元久日本大学副総長・工学部長をはじめ、畑中善勝日本大学校友会事務長並びに各学部校友会長と、多くの方々のご臨席のもとに開催された。和やかな中にも日大節が舞われるなど、活気の溢れる懇親会であった。



平成12年度一般会計収支決算書

歳入		単位:円				△…減
款項	種目	予算額	決算額	比較増減	付記	
会費	1 終身会費	10,500,000	10,160,000	△ 140,000		
	2 入会金	21,000,000	20,280,000	△ 720,000		
	計	31,500,000	30,440,000	△ 860,000		
繰越金	3 前年度繰越金	3,431,226	3,431,226	0		
	計	3,431,226	3,431,226	0		
雑入	4 預金利息	40,000	23,738	△ 11,262		
	5 名簿代金	90,000	180,000	90,000		
	6 雑収入	138,774	300,200	161,426		
	計	268,774	503,938	235,164		
合	計	35,000,000	34,380,164	△ 619,836		

歳出		単位:円				△…減
款項	種目	予算額	決算額	比較増減	付記	
事務費	1 給料手当	4,500,000	4,500,000	0		
	2 保険料	400,000	400,000	0		
	3 交通費	500,000	400,000	△ 100,000		
	4 旅費	20,000	20,000	0		
	5 交際費	1,000,000	1,300,000	300,000		
	6 需要費	300,000	250,000	△ 50,000		
	7 備品費	300,000	240,000	△ 60,000		
	8 印刷製本費	300,000	300,000	0		
	9 通信運搬費	800,000	600,000	△ 200,000		
	10 修繕維持費	10,000	10,000	0		
	11 分会費	300,000	300,000	0		
	12 雑費	150,000	150,000	0		
	計	9,270,000	9,270,000	0		
事業費	13 組織対策費	1,600,000	1,700,000	100,000		
	14 会報発行費	2,800,000	2,800,000	0		
	15 会費管理費	2,800,000	2,800,000	0		
	16 下宿対策費	10,000	10,000	0		
	17 式典費	2,400,000	3,100,000	700,000		
	18 母校訪問費	600,000	600,000	0		
	19 負担補助費	2,000,000	2,000,000	0		
	20 新規事業費	300,000	190,000	△ 110,000		
	21 電算化事業費	800,000	800,000	0		
	計	15,300,000	15,310,000	10,000		
会議費	22 総会費	500,000	900,000	400,000		
	23 役員会費	300,000	350,000	50,000		
	24 連絡協議会費	300,000	350,000	50,000		
	25 旅費	1,700,000	1,300,000	△ 400,000		
	計	4,800,000	3,950,000	△ 850,000		
雑出金	26 特別会計繰越金	300,000	300,000	0		
	計	300,000	300,000	0		
積立金	27 積立金	3,800,000	3,800,000	0		
	計	3,800,000	3,800,000	0		
予備費	28 予備費	1,000,000	500,000	△ 500,000		
	計	1,000,000	500,000	△ 500,000		
合	計	35,000,000	35,000,000	0		

歳入額 34,380,164円
歳出額 29,623,949円
差引残額 4,756,215円を翌年度へ繰り越しとする。

財産の状況(平成13年3月31日現在)

一般会計		引当財産	運用財産	合 計	単位:円
4,756,215	5,737,980	18,300,000	28,794,195		

平成12年度職員退職給与積立金特別会計収支決算書

歳入		単位:円				△…減
款項	種目	予算額	決算額	比較増減	付記	
繰越金	1 前年度繰越金	5,452,987	5,452,987	0		
	計	5,452,987	5,452,987	0		
雑入金	2 一般会計より雑入金	300,000	195,560	△ 103,440		
	計	300,000	195,560	△ 103,440		
積立金	3 職員退職給与積立金	80,000	81,240	1,240		
	計	80,000	81,240	1,240		
雑入	4 雑収入	7,013	4,193	△ 2,820		
	計	7,013	4,193	△ 2,820		
合	計	5,840,000	5,737,980	△ 102,020		

歳出		単位:円				△…減
款項	種目	予算額	決算額	残 額	付記	
引当金	1 職員退職引当金	5,840,000	0	5,840,000		
	計	5,840,000	0	5,840,000		
合	計	5,840,000	0	5,840,000		

歳入額 5,737,980円
歳出額 0円
差引残額 5,737,980円を翌年度へ繰り越しとする。

「母校を訪ねる会」第21回目を開催

第21回「母校を訪ねる会」は、平成13年10月14日(日)、創立50周年記念館（ハットNE）で盛大に開催されました。

「母校を訪ねる会」を始めた当時は、工学部を卒業されてから20年目に当たる校友の方々を中心として、ご招待の案内を差し上げておりましたが、その後40年目前後を中心として、再度、「母校を訪ねる会」を設けて欲しいとの希望が寄せられ、程なく、同様の趣旨で、30年目もと、さらには50年目もと、次々と母校を訪ねたいとの要望が寄せられて参りました。

「母校を訪ねる会」を企画した初心に還れば、これらの要望は、欣快この上もないことで、全部実現させるべきであるとの思いで、関係者の心は一致したのでした。

ここに掲げる4枚の記念写真は、校友各位の胸に秘めた母校愛の証そのものであります。各

年代の表情が物語る、希望、毅然、忍耐、悠然などなどには、共感つきところがありません。校友の皆さんは、日本大学工学部出身という、重くもすばらしい身分を背にして、この姿で社会の各界において、ご活躍されているのであります。常々、母校にとって、校友は宝であると言われております。母校のために、営々として、努力され頑張っておられる校友各位に対し、心から敬意と感謝の念を捧げるものであります。

ちなみに、今回のご欠席者数は、専門部卒業生36名、第9回卒業生61名、第19回卒業生79名、第29回卒業生58名の合計234名であります。

ご都合がつかず、この度ご出席された方々には、さぞ心惜しいことと存じますが、「母校を訪ねる会」は卒後何年目の対象者と限らず出席されても結構ですので、平成14年度に開催される当会には、是非お出かけください。



第21回 母校を訪ねる会（専門部卒業生）

平成13年10月14日



第21回 母校を訪ねる会 (第9回卒業生) 平成13年10月14日



第21回 母校を訪ねる会 (第19回卒業生) 平成13年10月14日



第21回 母校を訪ねる会（第29回卒業生） 平成13年10月14日

我等「弥勒会」(ミロク会 昭和36年3月卒業)の元気な面々

田島達也

この元気な顔の面々を見てください。卒業して40年、この記念事業に、此れだけの同級生が集い、懇親会を催す事が出来た喜びは、何なんだろうか？ 工学部の学び舎から実社会に出て40年、夫々が為し、又、生きて来て、今日を確かめ合えた大きな喜び、節目を、言わず語らず感じ会えたとの事なのかも知れない。或る意味では達成感なのでしょう。

参加して戴いた、外山・小栗先生も退官との事。この写真に並んで、他人が見れば、同級生の様な雰囲気の中、互いに是から健康を第一優先にして遣って行くことを約し、楽しく宴を催す事が出来、皆も大変盛り上がり満喫出来たようです。

卒業後、東京方面に就職した同期が多かったので、頻繁に集い、地方に行った人も、東京に出てきた時は、互いに声を掛け合って親交を温

め、仕事に、個人的な事にと、相談し、助け合い、色々交流が盛んに交わされて来ました。

最近では逆に、北は北海道、南は沖縄・九州鹿児島……等へ、年二回以上東京から押しかけ、其の土地で活躍している同級生に迎えられ、懇親会をするようにしています。こんな元気な我々63・64歳の面々と話し合っていると、まだまだ色々な方面で、社会に参加し、貢献している様です。

それでも、二代目への継承、二～三回と職域の変更・転職と先行きの不透明な中で、働き続けている同級生と語り、酒を酌み交わして居る



と、元気付けられ、有難いと思う事が多い。この様にして我々同級生と長く遣って継続している中で、色々な役目を、出来るだけ皆に持ってもらい偏らず、柔軟性を以って協力し合い声を掛け合い再認識をしながら、進めるように、最近はしているのです。「積極的に身体を動かし、働き続けられる自分を造り個性を生かさない、仲間から外されるぞ」と声を掛け合う此の頃です。

其の為にも、この「弥勒会」を、まだまだ続けて行くつもりです。

「母校を訪ねる会」に参加して、工学部の新しい息吹を感じた事は最大の収穫です。工学部・校友会の益々の発展を切に御祈りしますと共に、我々校友として、母校の発展を応援し続けて行くつもりです。有難う御座いました。

(建築 9 回卒) 榎レーモンド設計事務所
日本大学桜門建築会理事

「母校を訪ねる会」に出席して

奈良 俊 勝

10月14日、卒業後3度目となる「母校を訪ねる会」では、陸上自衛隊郡山音楽隊による校歌演奏で我々を歓迎してくれました。10年前に比べて、更に一回り大きく変貌した母校の姿に感激し、北桜祭(旧工学祭)での後輩達の元気な姿を目の当たりにし、羨ましくもあり、また、懐かしさを禁じ得ませんでした。

50周年記念館「ハットNE」は、初めて目にする素晴らしい建物でしたが、その中で行われた懇親会では小野沢元久工学部長、佐藤光正校



友会長の挨拶の後、美人コンパニオン達のおもてなしで、機械工学科の人のみならず、他の学部の人達との交流の場ともなって、終始楽しい雰囲気での立食パーティでありました。

「母校を訪ねる会」の前日には、郡山研修会館に於いて、菅野先生をお招きして同級生35名出席のもと、10年振りに同期会を開催致しました。最初は顔と名前が一致しなかったが、時間とともに昔の面影がよみがえって来る不思議さに驚き、文字通り40余年振りの再会に感激し時間の経つのも忘れて、学生時代を思い起こしながらの語らいに酔いしれる等々、誠に有意義な一時を共有し、3年後の再会を約束してもなお別れ惜しい一夜でありました。

「母校を訪ねる会」と「同期会」によって、明日への励みと生き甲斐を与えて頂いた母校に心から感謝し、益々のご発展を祈念致します。

(機械 9 回卒)

「母校を訪ねる会」に出席して

武内 良 男

この度「母校を訪ねる会」へのご招待を賜りましたことを契機に、卒業以来40年余にして久し振りの開催となりました電気工学科第9回卒業生の同窓会が、明るく、楽しく、爽やかに、しかも和気藹々の中で恩師各位のご臨席も仰ぎ盛会裏に挙行出来ましたことを心から深く感謝申し上げ厚く御礼申し上げます。

お蔭様で既に嘯風弄月の日々や大喝一声未だ精励恪勤の懐かしき友が久方振りに一同に会し若かりし過ぎし日に想いを馳せ、近況を語り合い、久々に時間の経つのが惜しい位に有意義な一時を過ごすことが出来たのも「母校を訪ねる会」のご案内の賜物であり此処に重ねて御礼を申し上げます。

扱、この「訪ねる会」会場にて頂戴致しました「工学部案内」を拝見しつつも隔世の感深しでありまして在学中、今は亡き外木有光先生を初め当時の先生方と我々学生が一体となり実験

研究設備の拡充等、大学としての人的・物的充実に願い、微力ながら貢献したいとして小生も大槻正憲氏等と共に学生委員会代表の立場で、元法務大臣・田澤智治先生等のお力添えも得て故古田重二良会頭殿にも幾度となくお会いし、要望やお願いを申し上げたこと等々、思い起こすにつけ現在の充実発展ぶりは眼を見張る程目覚ましく、小野沢学部長殿を初め本学関係各位の熱意とご尽力に改めて敬意を表する次第です。



先般、International Conference for Advanced Technology of Environment Control and Life Support の国際会議に出席して思うに、本学に於かれましてもどうぞ今後共、学科、研究科、研究所の更なる質的充実に務め、TLO (NUBIC) を含め、Advanced Technology を内外の産業・社会に向けて大いに発信して頂き、新世紀を担う教育・研究機関としての更なる躍進と発展を希うと共に、関係各位の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げ拙文の結びとします。

(電気9回卒業) (株)サイエンテック専務取締役



「母校を訪ねる会」に出席して

大野 優 嗣

卒業してはや30年、土木工学科第19回卒業生の同級会が平成13年10月13日に磐梯熱海の「一力」で、翌日14日は『母校を訪ねる会』が開催されました。

私は今まで出席したことが無く、今回を逃すと10年後には同級生と再会出来なくなることもあるかもしれないと考え参加しました。

考えると、我々団塊の世代は卒業後高度成長経済の中、人間は自然と経済をコントロール出来るという根拠のない妄想と傲慢さを持ってひた走りに走りつづけて来た様な気がします。

気が付けば、大量の赤字国債と不良債権の山、環境破壊による生活環境の悪化が叫ばれている。

同級会でも景気の先行き不安、リストラと倒産が話題になるほどであり、その影響であろうか参加者が10年前に比べ大幅に減っているということであった。

母校を訪ねて改めて今後の日本と世界を担う後輩に、技術や経済の発展が人類の「滅びの笛」ではなく『喜びの笛』になるように、地球規模で人類の幸福と発展に貢献出来るトータルコーディネート出来る確かな目を養うため、人種や宗教を越えた哲学を学び人間性を向上させてほしいと心から願いました。

終わりに、母校を訪ねる会と同級会の運営に尽力された方々に感謝申し上げますとともに、母校の益々の発展を祈念します。

(土木19回卒) (有)光優興産



「母校を訪ねる会」に出席して

山本 幸久

今回初めて「母校を訪ねる会」に参加し、郡山駅が近づくにつれ、学生時代が昨日の出来事のように蘇ってくるのを感じた、駅と周辺は面影をとどめず、時の流れを痛感した。

夜、市内ホテルで19回機械工学科卒業生の同窓会が行なわれ、佐藤校友会長から大学のおれた厳しい現状についての挨拶のあと、森谷君（助教授）等友人との懇親会が行なわれ近況報告、思い出話に一時を過ごした。風貌は変われど心は変わらず、お互いの健康を気遣いその夜は解散。

翌日、山田君（郡山市役所勤務）と共に母校に到着、学舎は大きく変わり、時と共に発展した姿を目の当たりにして卒業生の一人として心強く感じた。記念撮影と小野沢工学部長の挨拶等の後ハットN Eで恩師の菅野宗和先生、依田満夫先生、橋本耕吉先生等の姿が見える中盛大に懇親会が行なわれ、一時を過ごし母校を後にする。

学園紛争のさなか、雪桜の下で学舎を去って早30年、若き日の想いが詰まったこの地をいつか又訪れる日も有るかと思う。

最後に忙しい中、同窓会等の準備をされた幹事の皆様に、この場をお借りしお礼を申し上げます。

（機械19回卒）アイシン・エイ・ダブリュ精密機



同窓会と母校を訪ねて

米田 龍央

工業化学科第19回卒業生の30年ぶりの同窓会がホテルハマツで行なわれました。

久しぶりに会う恩師や友人、卒業後30年ぶりに会う友人と顔を合わせると昔の面影が残っており名前を呼び合い、懐かしく語らう風景があちらこちらで見られました。恩師後藤尚先生の挨拶に始まり、各出席者の近況報告をしていると何時の間にか全員学生時代にタイムスリップし昔話に夢中でした。そして、卒業35年目の同窓会もやろうと誓い合って散会致しました。



翌日は母校を訪ねて、余りの環境の変化に驚きました。21世紀に相応しい施設が母校に揃って、その中で勉学できる学生が羨ましく思えました。恩師佐藤良和先生に、学生時代に過ごした高分子研究室を案内して頂きましたが、そこには過去の思い出の片鱗はなく残念でした。しかし、佐藤先生の研究室に入ると少しだけ昔の思い出が残ってありました。

これも時代の流れで、我々が卒業した学科名が今は物質化学工学科と名称を改めて地球環境に適した新規材料への挑戦が始まっております。我々も卒業生として、微力ながら後輩への協力支援を惜しまない所存であります。

最後に、この度同窓会の幹事新田君ほか皆様には大変お世話になりました。また「母校を訪ねる会」にご案内くださいました工学部並びに校友会の皆様には厚くお礼申し上げます。

（工化19回卒）宇部マテリアルズ

第29回卒 土木工学科同級会

小 野 信太郎

新世紀の年に、昭和55年度卒業生26名が2001年10月20日、郡山ビューホテルに集まった。

20年ぶりということで、卒業してからのそれぞれの人生を刻んだ顔ぶれがそろい、卒業時の面影にだぶらせるのに苦労する方もおりました。

しかし、近況を交えた自己紹介が進むにつれ、学生時代の懐かしい思い出がよみがえり、時間の経過とともにアルコールも手伝って、気持ちの方は20年前にすっかり戻っていきました。

でも、仕事の話になると、土木工学科ということで、卒業時がバブルの前、バブル時期を経験し、バブルが弾けた今と、責任の重い年代となり悲喜こもごもの経験をした方が多く、そんな話も「同級会」での酒肴として、笑い飛ばし、10年後の再会を約束して、深夜の郡山で解散となりました。

翌日は時間の許す方々が「第21回母校を訪ねる会」へ出席し、20年目にして初めて郡山へ戻り、郡山市内や母校の変容にビックリしていた方が多かったようである。

(土木29回卒) 日本大学工学部勤務



「母校を訪ねる会」に出席して

鹿 野 雅 士

10/13 卒業後20年目の節目の年に、郡山在住の佐藤幹一君佐藤郁夫君の2人が発起人で、同級会が開催されました。

大学からは山本登教授、杉浦義人助教授、退職されましたがお元気な穴戸敏雄先生、校友会から伊藤副会長をお迎えして、大学の近況、学生気質を伺うことが出来ました。

話しは尽きず、20年前の学生時代の記憶が蘇り、今は東北新幹線の便利さに感謝し、恩師松橋教授の思い出も、飲みながら酔うほどに尽きせぬ話しに、時も忘れ歓談しました。

同窓生は、地元で活躍しているFCTの佐藤郁夫君と日立テレコムの佐藤幹一君、日彰製作所の宗像昭一君たちの卒業から20年間の時の流れを感じる話しも尽きませんでした。

私もポンプメーカーに勤め、郡山に出張し、新幹線から見る日大の校舎の充実を感じながら郡山近郊や駅前ビル等の発展ぶりは目を見張るものでした。

電気工学科29回卒の皆様、次回是非出席を。

14日「母校を訪ねる会」には、同級会に出席出来なかった松本好正君と佐藤和彦君の顔を見ることが出来、式典では、小野沢工学部長から日大の位置づけ、21世紀の事業形態等の熱き思いを長時間熱弁され、内容に母校の発展に心強く感じる事が出来ました。

懇親会の会場で、小林力教授より恩師の近況をまとめた資料を頂きました。他界された、先生方を忍び、退職されましたが、お元気な先生方の近況を伺い、物理学の小倉崑先生にお会い出来ました。

最後にこの会にご招待下さいました方々に、厚くお礼申し上げます。

(電気29回卒) ㈱イワキ

「母校を訪ねる会」に参加して

伊 東 司

卒業以来半世紀が過ぎてしまいましたが、その間専門部電気科の卒業生は1・2期合同で10回ほど同期会を開いてきました。今回は母校を訪ねる会に合わせてその前日に開くことになり母校に近いホテルで、新潟、東京からの出席者を含め小人数でありましたが、酒を酌み交わし交流と友情を深めあい思い出深い50年目の同窓会になりました。

翌10月14日は全員で母校を訪ねる会に参加致しました。広いキャンパスに卒業当時の面影を残しているものは、アカシアと桜並木だけになってしまいました。北桜祭最終日とあって正面からの桜並木通りは気分が振っておりました。

今回の訪ねる会の参加者は今までになく多く、特に50年前に卒業された専門部の皆様が元気で40名近くも参加されたとのことに驚きと心強さを感じました。

本館前では吹奏楽部の皆さんによるパレードと校歌演奏で歓迎を受け、記念撮影の後セレモニー会場である創立50周年記念館に移りました。佐藤校友会長の挨拶そして小野沢工学部長から工学部の現況と21世紀における大学の有り方などのお話があり懇親会に移りました。

最後になりましたが、今回の母校を訪ねる会を企画運営されました校友会、大学の関係者の皆様に感謝申し上げます。

(専門部電気2回卒)



同窓会・クラブ・その他

『かつみ荘同窓会』に集う!!

高 坂 裕 幸

平成13年9月8日、『かつみ荘』同窓会は郡山ビューホテルアネックスにて盛大に執り行われました。ある二組の夫婦が呼び掛けたこの同

窓会は、昭和33年から郡山市方八町で素人として下宿『かつみ荘』を起こし当初は日大第二工学部そして工学部改称後の学生昭和36年から52年までお世話になった卒業生達が、富岡様ご夫妻を招いて全国から一堂に会し久しく歓談する催しであった。



夕刻三々五々集まった参加者は、富岡様ご夫妻とご夫妻の三姉妹ご家族、そして北は北海道から南は九州の32名の同窓生と同伴のご婦人5名を含めて総勢43名の大所帯となった。

形どおりながらも賑やかな自己紹介、懐かしい下宿時代の写真が次々と大型スクリーンに再現される。皆若い！画面が変わるたびに歓声が沸き上がった。

お世話になったご主人に紅一点の同窓生が花束を、奥様には下宿当時一番手を焼かせ迷惑を掛けた某氏がお詫びの心を込めて記念品を贈呈しやんやの喝采を浴びた。

クライマックスは奥様からのお礼の挨拶の時にやって来た、未だ食料事情が思いのままに成らない当時の話しに及び胸迫る思いで、遠方より郡山に來た学生さんにお米におかずにと気苦労の日々に加えて精神的負担…、聞き入る当時の腕白学生今好々爺の面々もしばし目頭が熱くなり、奥様の思い出話に万来の拍手となった。

校歌・応援歌に移ると俄か応援団員数人が出現し時間は大幅にオーバーして終了する。

翌日、建築科の数人は40年振りに母校を訪問した。正直言ってバスから降り立った正門と桜並木の僅かな空間だけが当時を思い出させる風景に唖然とした。

日曜日というのにグラウンドには部活の学生数人が、我々を先輩と感じとって“こんにちは”と元気な声を掛けてくれた。環境も設備も充実し恵まれた学生生活を送る彼らも卒業を前に厳しい現実と直面することでしょう。元気な後輩諸君に素晴らしい人生を期待しながら母校をあとにした。

再び、郡山駅に戻り駅ビル内の懐かしい【福豆屋】にてそば定食の昼食を済ませ、僅か二日間ではあったが沢山の思い出と土産と共に又の再会を約束して別れた。

最後にこの度の同窓会にあたり、校友会事務局に大変お世話になりました。紙面を借りてお礼申し上げます。

(建築10回卒)

「安積荘33年時代の人々の会」

宮坂孝夫

仕事以外は人に会うのも面倒な位に無我夢中に過ごしてきましたが、現役を離れる頃から妙に学生時代の人々のことを懐かしく思い出すようになりました。そして新緑5月、下宿生活を共にした11名により「安積荘33年時代の人々の会」を開催、母校と下宿を訪問しました。

当日は、安積荘最寄りの安積永盛駅に集合し43年ぶりの再会でしたが、誰一人見間違えることも無く、長い年月を挟んでいても顔を会わせた瞬間に33年当時にタイムスリップしてしまいました。駅から徒歩5分程の安積荘の跡を訪ねた後、阿武隈川を渡り昔のままの‘アカシア林の通学路’を抜けると懐かしい母校の正門。

卒業以来初めての母校訪問の人が多く、環境も設備も充実された学園風景に驚きながら、当時の建物や今は大木に成長した正門からの桜並木に当時の面影を追っていました。

今回母校を訪問し、厳しい社会の中で人並みに過ごせ太さを問わず何かを残すことができたことは郡山での学生生活が原点であり、これからの人生にも原点であり続けるのではないかと考えた人も居たのではないかと思います。



母校を後にして、磐梯熱海温泉‘ホテル華の湯’で汗を流した後、懇親会に入りそれぞれの卒業後の軌跡を含め自己紹介等和気藹々に酌み交わし大いに盛り上がり、閉会の予定時間は大

幅にオーバーしてしまいました。最後に、歌えるかなと心配の声もありましたが、全く問題無く“校歌”と“若きエジニア”を合唱し、第2回目の開催を数年先に約束して閉会しました。

次回は、今回参加の皆さんから得た情報を基に案内範囲を拡大し「安積荘の人々」の形で開催できることを楽しみにしています。

(機械10回卒)

山本 和夫(機7) 宇佐美敏雄(土8)
染谷 武夫(土8) 市橋 康則(電9)
沼畑 進(機10) 原田 勇吉(電10)
松山 行孝(機10) 渋谷 修(建10)
結城 睦夫(化10) 田島昌八郎(理工学部・土)
宮坂 孝夫(機10)

日本大学工学部写真部創立50周年記念式典 並びに今泉先生の古希の祝賀会に出席して

関 澤 靖 夫

去る10月13日、輝かしい新世紀を迎えた年に半世紀に渡る歴史を誇る日本大学工学部写真部創立50周年記念式典並びに今泉嘉一郎先生(顧問)の古希の祝賀会が成田温泉(郡山)で総勢40余名出席のもと盛大に開催されましたことを本紙をおかりして報告致します。

会場に入るや、今泉先生の変わらぬお元気な姿と同年代の皆様の懐かしい顔々々に36年前に一気にタイムスリップした感じで当時の思い出話に花が咲くと共に、現役部員の皆様が精魂込めて今回の記念式典の為に準備頂いた1960年代からの写真展出品作品や各年度別部員の記念写真を年代別にCDに編成された画像を見ては、あっ、あの時の写真だと想いは完全に学生時代にもどり、楽しき思い出にふけりました。

記念式典に入り永嶋先生、星先生の両顧問挨拶並びに今泉先生の挨拶で懐かしい思い出が昨日の様によみがえると共に小生卒業後の写真部がたどった学生騒動時の困難な時代を乗り越え今日に至る歴史の重みと現役部員の皆様のチームワークと絆の深さを実感し今後贈々の発展を

確心致しました。

式典後は温泉につかり宴席へと入りましたが写真部の伝統ともいべき酒の強さはしっかりと引継がれており心ゆくまで旧交を温めさせて頂きました。

翌日は母校を訪ね、現役部員の案内で学部祭の写真展示室及び部室を訪問致しました。

部室は現在、鉄筋コンクリート作り(小生の時は木造部屋で板のスキ間から光が漏れ、又人が通るとゆれが出る為、写真展出品作の引伸ばし作業は夜10時過ぎから朝方迄掛けて行った事が頭をよぎりました)で時間の変化を感じましたが、部屋のスペース、配置及び現像液の漂う雰囲気は今も同じで懐かしさを感じつつ母校をあとに帰途につきました。

最後になりましたが、今回の記念式典を企画頂いた服部敏明君(建27卒)はじめOB会幹事の皆様及び現役部員の皆様には厚く御礼申し上げますと共に写真部の贈々の発展をお祈り申し上げます。(工化13回卒) 網タナベ 技術部



日本大学工学部硬式庭球部 “OB会40周年記念会”

片 岡 周 太

硬式庭球部は、昭和35年に創部し2年後の昭和37年に最初のOBを輩出致しました。

そして、今年で40年を迎えました。40年を記念し平成13年6月2日東京新宿の京王プラザホテルコンコードで40周年記念会を開催しました。

定刻6時半に始まった式は、旭輝久準備委員長(土15卒)の開会の辞に続きCD伴奏による校歌斉唱。硬式庭球部草創の時代より顧問とし

最後になりましたが、この度の記念会開催に



(機械21回卒) 櫻コンクリート(株)



第2回管弦楽部OB・OG会総会（創部40周年記念） 工学部北桜祭の郡山で開催

杉 坂 宏 欣

第2回総会は、平成13年10月13日(土)、郡山ビューホテルアネックスで開催しました。本年は管弦楽部創部40周年に当たり、時期を母校の「北桜祭」(工学部祭)に合わせ、会場は郡山とし、13日はホテルで総会と懇親会を、翌日14日は「北桜祭」コンサートで現役との合同演奏会を行いました。工学部管弦楽部は「柔軟な発想を育み、心豊かなエンジニアを目指す」文化活動の一環として昭和36年秋(9月)に創部されたもので、以来その主旨を理解する仲間の入部が続き、平成13年10月1日時点のOB・OG会員と現役の総数は182名になりました。



今回の創部40周年記念行事の2日間に渡る多彩な行事の様子は、CDに収め「記念CD」として希望者に有料で配布することになりました。希望者は、平成13年度の年会費(2,000円)振込とは別に「記念CD希望」と明記し、3月31日までに郵便局口座「記号10220 番号74004891」、振込先(加入者名)「日本大学工学部管弦楽部OB会」に500円を振り込んで下さい。4月中旬に発送します。また、広報「NEWアルモニア」へ、住所やe-mailアドレス変更、ご意見、近況をお寄せ下さい。

(機械13回卒)

静岡アカシアの集い・母校を訪ねて (静岡市役所・あかしあ会)の報告

大 澤 俊 幸 (静岡工業高校・土木27回卒)
望 月 克 彦 (静岡市役所・土木38回卒)

・静岡アカシアの集い

平成13年5月12日(土)、大学より中村玄正教授(土木)、校友会より佐藤光正会長・渡澤正典幹事長をお迎えして『静岡アカシアの集い』が盛大に開催されました。当初、小野沢元久副総長・工学部長(機械12回卒)も出席の予定でしたが、急な校務のため出席できず残念でありました。

しかしながら、今回も工化6回卒の大先輩・石部欽一郎氏はじめ今年3月卒業のピカピカの新人まで160名もの校友が出席されました。静岡県内には多数の日本大学の校友がいますが、学部単位でこのような大規模な校友の集いが開催されているのは工学部だけであります。これも静岡県庁の土木関係の部門で圧倒的な力を持つ工学部校友のご協力、静岡・浜松市はじめ県内のすべての市役所、そしてほとんどの町村の役場に工学部の校友が在職しており(芝川町・臼井 進町長・土木21回卒)、さらに県立工業高校のすべてにこれまた校友教員が在職しており、ネットワークがしっかり出来ていることにもよると思います。しかし、何と言っても青春多感な時をあの『アカシアの森』『人情厚い郡山の町』で過ごした貴重な誇りうる経験があるからではないでしょうか。

なお、少子化による影響で大学冬の時代と言われておりますが、県内の高等学校には前述のように多数の校友教員が勤務していることから工学部をめざす高校生は年々増加し13年3月卒の中田 淳君(島田工卒)は東北大学大学院(電気専攻)へ進学するなど立派な実績を上げております。

このように『静岡アカシア会』は単に校友の交流の場のみではなく、次の時代に活躍する若人を『アカシアの森』へ多数送り込み工学部のますますの発展に大きく寄与できることを願っております。

・母校を訪ねて ― 『第2のふるさと・郡山』

工学部卒の静岡市職員(会員20名/会長 鈴木健夫)で構成されている『あかしあ会』は平

成13年10月20日(土)に結成以来、15年ぶりの2度目の母校訪問を行いました。

郡山の街、大学のキャンパスが全く違う場所に來たと感じる者からほとんど変わっていないと感じる者まで様々で、それぞれの心の中の時計が思い思いに逆戻りしたようです。

新装なった学食での昼食は、昔と今を感じとるには最適でした。当時の自分と今の学生を比較しながら、懐かしい味に浸った一時でした。

その後、倉田工学部次長より母校の新たなチャレンジについてご説明いただき、常に前を向いて歩み続ける姿勢に大変心強く思いました。そして同時に、50余年にわたって先輩の方々が築いてきた、たぐいまれな『校友の強い絆——家族大学・工学部』の誇りうる伝統・校風についても、いつまでも大切に守っていかなければと思いました。さらに、我々のように、母校を訪ねた人が皆、懐かしさを感じつつ、『あの頃の夢は、志はどうなった、今の自分はどうかんだ。』とエネルギーを奮い立たせる野鳥がさえずる緑の学園をいつまでも守って欲しいと思います。訪ねた時間は短かったのですが、我々にとって貴重な財産となりました。

校友の皆様、母校を訪ねてみてはいかがですか。『青春のシンボル・アカシアの森』はいつでも我々を暖かく迎えてくれます。何か発見できるものがあるかもしれませんよ。『アカシアの森・工学部』は私たちの宝箱ですから。

最後になりましたが、お忙しい中、ご案内していただきました倉田工学部次長、中村玄正教授ほか関係者の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。



「卒、35周年の集い」

早川 一 胤

「ここは東北か、郡山の街か、郡山の街なら大学は日本…」と言って、郡山市をねり歩いた訳ではないのですが、郡山の地で日本大学を卒業して35周年を経過しました。卒20年の「母校を訪ねる会」を期して、二工会（土木工学科14回卒）の活動が始まり、5年きざみに大学祭に合わせて郡山市に集合してきました。今回は初めて、郡山市周辺から離れて、岳温泉でクラス会を実施して見ました。安達太良山のふもと、風光明媚で静かな湯量豊富な温泉地です。平成13年10月13日の事でした。



当日は、日本大学名誉教授の木村喜代治先生、土木工学科から村田吉晴先生をお迎えして各々のお話を聞き、盛大なクラス会となりました。遠くからの友も、福島県美人を囲んで、わずかの時を惜しんで情報交換に話がはずんで、歌の出る番がありません。年の割にはアルコールの量が多かった様に感じられました。クラス会で、社会生活でのあらゆる緊張の糸がゆるんだせいではないだろうかと考えます。これはクラス会の効果、友達なら、35周年振りに会っても「オース」で時間、空間をアッと言う間に埋めてくれることになりました。

翌日（14日）は工学部の発展状況と北桜祭を見学、施設の充実に感心し、恵まれた環境で、後輩の能力向上を念じながら、それぞれの地へ散って行きました。

次回の集いは、——、これまで学生時代を含めて、福島県内を歩き回る機会は少なかったもので、これを期に福島県の温泉巡りをしながらクラス会を開きたいと考えています。次回はどこの温泉地になるのでしょうか。楽しみにして下さい。
（土木14回卒）東京都水道局

長野県校友会発足

事務局長 田 中 敏 雄

関東支部長野県校友会の設立総会が平成13年3月17日に長野駅前「ホテルサンルート長野」において盛大に開催されました。

小野沢副総長・工学部長、佐藤工学部校友会長、児玉関東支部長、田口関東副支部長の御臨席のもと総会が始まり会則の承認及び役員の選出が満場一致で可決されましたことをご報告いたします。

会長に三浦憲氏（土5）副会長に宮嶋寿一氏（土13）、奥原保男氏（土15）の両氏、以下8名の役員が決定しました。

引き続いて御来賓各位よりご祝辞をいただき、小野沢副総長からは、これからの大学の歩むべき道、特に日大工学部がどのような方向性を見いだして進むべきかのお話がありました。また佐藤校友会長からは日大ネットワークの基礎となる校友会支部の誕生は実に喜ばしく全国に支部が出来ることを期待しているとのお話がありました。

その後懇親会に入り和気藹々の雰囲気の中で

時のたつのも忘れ会員相互の親睦を深めることができました。

長野県支部会員1160余名がお互いの絆を深めさらに工学部の発展に少しでも寄与出来るよう頑張っていく所存でおりますのでよろしくお願いいたします。校友の皆さん全員が会員の校友会ですから気軽参加してください。どんなことでも結構です御連絡をお待ちしております。

（土木18回卒）田中建設（株）（自営）



支 部 活 動

北海道支部活動報告

北海道支部事務局 渡 邊 純 也

北海道支部は道内在住の同窓で組織され、会員数は現在約1,000名ほどで、支部の活動は定期総会とこれにあわせた懇親会の開催と、支部独自の会員名簿の発行が中心となっています。

総会はこれまでの経験から校友が比較的出席しやすいと思われる冬期間に開催し、毎年70か

ら80名の出席をいただいております。総会の案内は大変な作業ですが住所を把握している会員すべてに行うようにしており、この際に校友の住所や勤務先を確認させていただき、データベースを更新してこれを支部名簿として会員に頒布しています。現在、役員、事務局が協力して支部名簿の改訂作業を進めており、平成14年3月の総会までには発行できる見通しとなっています。

振り返りますと、当支部が結成されました昭和49年頃には会員数が毎年数十人規模で増加しておりました。このような活気あふれる状態が10年ほど続きましたが、昭和60年代に入りますと一転し、現在は全学科をあわせましても10名ほどと大きく減少しております。この要因は様々なことが考えられますが、何れにしても、現役として活躍する北海道の校友がしだいに減って



くることは明らかで、仕事面における先輩後輩の協力、支部活動の担い手の確保などについても大きな影響が予想されます。

21世紀に入り少子・高齢傾向の顕在化、失業者の増加、経済状況の悪化など社会環境に楽観的な話題は見当たりませんが、このような時にこそ、「同窓」というわずかなつながりを大切にすべきではないでしょうか。

(土木28回卒) 札幌市水道局 配水センター

四国支部活動報告

四国支部長 北岡保之

校友皆様方には益々御活躍心よりお慶び申し上げます。

平成13年度総会は、再開発事業で新しくオープンしたサンポート高松の全日空ホテル・クレメント高松で8月18に開催し、28名の参加がありました。事業・会計報告・役員改選があり、支部活動の活性化など話し合い総会を終えました。

懇親会では、お忙しい中出席いただいた佐藤光正校友会会長より母校を訪ねる会等大学の近況報告があり、開演となりました。恒例の全員による近況報告、情報交換と盛り上がり、最後に寮歌、校歌の大合唱で旧交を大いに温めました。

支部の会員数は約500名で、エンジニアとして広い分野で活躍しています。希望者には名簿を送付しますので連絡下さい。



総会以外の活動は、次の通りです。

- ① 月例会（一本会）を第1木曜日に高松市内町6-5「はんぶん」で18:30~20:30に自由参加で行っております。また6月23日にはジャズを聞きながらの家族会（24名）を開催し、楽しく過ごしました。
- ② ゴルフコンペは各県持ち回りで年2回予定しており、希望者だけに連絡していますので必要な方はご一報下さい。
- ③ 高知分科会も発足して2年目を迎え、濱田（機械5回）会長のもと活躍しております。

私たち校友は年齢の差こそあれ青春時代に同じ景色を見て過ごした仲間として、会い集いたいと思って降りますので、気軽に声をかけて下さい。

なお、発足以来の役員として活躍いただいた松崎雅人（建築16回）君が闘病の末帰らぬ人となりました。ご冥福をお祈り申し上げます。

(工化14回卒) 高松市土木部長

九州支部総会報告

脇山亨治

第21回に日本大学工学部校友会九州支部総会を平成13年10月26日(金)に、福岡市中央区天神の「平和楼」で開催いたしました。

近年は不況のせいもあるのかだんだん集まりも悪くなり、以前は800名ほど九州全域に案内していましたが、福岡県及びその近郊のみ約

400名に案内し、返事も内200名足らず その内の参加はわずか30数名となっております。今回最終的には35名ほどの出席でした。

本年度の総会は残念ながら佐藤会長はご都合がつかず、村田先生に出席していただきました。出席者の大半が土木と建築と言うこともあり、村田先生に教わった方も多数居たので話も盛り上がり、後日問い合わせで村田先生がお見えと早く分かっていたら、ぜひ参加したかった。との声もありました。

総会は湯村支部長（建37卒）の挨拶から始まり、上村君から会計報告があり事務局より年間報告をして懇親会へ入りました。当九州支部の年間予定は毎月第三木曜日に六時半より、三千円ほどの予算で総会と同じ「平和楼」にて支部長を囲み5～8人ほどで懇親を深めています。本年度は事務局の都合でゴルフコンペの開催も見送っております。懇親会では村田先生より、最近の郡山や工学部の授業内容や生徒のこと、今後の工学部及び本部のことなどお聞かせいただき、参加者全員真剣に耳を傾けていました。久々の出席者の自己紹介等もあり、2時間の懇

親会もあっという間に終わり、最後は応援団におられた建44卒西山先輩による「校歌斉唱」と、建39卒中村先輩の「博多手一本」、「博多祝いめでた」を建43今福・建55上村・土57山本三名の音頭により会の締めをして2次会の中洲へ向かいました。

今後も支部が活性化し、数多くの方が総会に出席していただけるよう、また転勤等で九州に来られた方もたくさん出席して頂いてますので、お気軽に事務局に声かけ頂けるように御願いたします。（建築29回卒）九州支部事務局長



日本大学工学部・東京都校友会発足

日本大学会館にて、平成13年4月28日、東京都校友会の設立総会が関東支部総会の際に討議され、満場一致で可決されました。関東圏の校友会と工学部との絆が一層密接な関係を保ち技術の向上と情報の交換が有効に機能できることを願って発足致しました。

役員は、下記の19名で構成し、7回の各種連絡協議会等をすでに開催致しました。東京都校友会の活動に賛同される方は、校友会情報の起点として御利用下さい。

役員	氏名	卒業年次	所属クラブ	勤務先	役員	氏名	卒業年次	所属クラブ	勤務先
会長	盛武建二	土木17回		会計検査院	副会長	深野一男	土木20回	応援団	ニューウェーブとしま
副会長	中島康之	建築13回		伊藤喜三郎建築研究所	副会長	三橋慎一	土木20回	応援団	戸田道路株式会社
副会長	荒木 繁	土木14回		東京都新宿区役所	副会長	松井啓司	建築21回		(株)青木建設
副会長	入江 巧	土木14回		東京都目黒区役所	副会長	松永 昭	機械22回	空手部	綜研テクニク株式会社
副会長	田村俊昭	土木14回		東京都渋谷区役所	副会長	鈴木浩之	機械35回		アロカ株式会社
副会長	星野濱三郎	土木14回		東鉄工業株式会社	事務局長	岡田武男	土木21回	合気道部	通信土木コンサルタント
副会長	藍郷繁治郎	土木14回		㈱ユニオン・エンジニアリング	事務局次長	早川一胤	土木14回		東京都水道局
副会長	佐藤正條	建築16回	合気道部	㈱條建築設計事務所	事務局次長	田邊忠博	建築19回	バスケット部	森京介建築設計事務所
副会長	吉田昭夫	土木17回		株式会社中黒建設	事務局次長	松崎信一	建築31回	日本拳法部	(有)松崎建設
副会長	児玉 透	土木18回		飛島建設株式会社					

私は平成13年度電気工学科を卒業し、地元である群馬県の群馬県警察に入署しました。

4月から警察学校へ入校し、6ヶ月間警察官としての「いろは」の「い」を学び、厳しい訓練を受け、ようやく昨年の10月に学校を卒業し、警察官として群馬県渋川警察へ配属になりました。まだ配属されてから4ヶ月、何もわからない自分は無我夢中で先輩達に仕事を教わり頑張っているところです。

今私は有馬交番という交番で働いているのですが、先輩達にも恵まれ楽しく時には厳しく勤務させてもらっています。が、仕事内容はとてもハードで毎日くたくたになって家に帰っております。

今の私があるのも、大学時代にやっていたバイト、部活（体育会ボクシング部）等のおかげだと思っています。何故なら仕事をやっていく事にあたりやはり資本は体です。体が丈夫でなければこのような時間の不規則な勤務にはたえられないでしょう。体あってこそその仕事であり、体調管理を今一番気にしています。大学時代勉強した“電気”はこの仕事とは無縁なもので、類が違うのでとても苦労しております。「勉強」というのはやればやるほど吸収力も多くなっていきます。現場へ行くたびにこういう事案に対しては、どの法律が適用され、どういう対応をし、どういう処理をするか？やればやっていく程、奥の深いやりがいのある仕事だと思います。勉強不足は日々痛感させられているところですが、更に一般常識、知識、判断力、決断力が必要であり常に社会情勢、政治、経済等の世の中の動きを、敏感に感じ取らなければなりません。またそれを活用する能力が必要になってきます。

現在の世の中は、物騒になり、犯罪も多種多様化になっています。凶悪犯罪（殺人、強盗、放火、強姦等）も頻繁に発生するようになり警察は命懸けの犯人の探索、体を張り住民の防護・ケンカなどの鎮圧で、我々は死と隣り合わせで仕事をしているんだなと思うと、恐ろしくなってきます。また事件、事案もコンピュータ犯罪・ストーカー行為・DV法など警察の仕事も幅広くなり、困り事相談など、“何でも屋”みたいなところとなりつつあります。本当に警察の仕事は大変です。

そんな中でも4ヶ月間働いてきて、うれしかっ

た事、頑張ろうと勇気つけられる事などがありました。それはやはり住民人々の声です。「ご苦労様でした」「我々のためにいつもありがとうございます」「今日は寒いので体に気をつけて下さい」と温かい飲み物を差し入れてくれたりホカロンを頂く事があります。そうすると人間の気持ちというのは単純なもので、こういう人達のために頑張ろうとか、自分が守らないで誰が守る。自分がやらなきゃ誰がやるなど自分が単純なだけかもしれませんが、そういう気持ちになります。

私はまだ新人の立場であり、半人前の立場で恐れ多いかもしれませんが、これからの時代は警察官と住民が一体化というか手を取り合って犯罪や事件、事案に立ち向かっていかなくてはならないのでしょうか。事件が多発するなか、はっきり言って警察官の人数が全般的に不足しています。補うには住民の皆さんの手助けが必要です。いきなり助けてくれなんて言ってもそれは無理な話です。どうするかというと警察の仕事の1つに巡回連絡というものがあります。それは皆さんの家を一軒一軒回って、意見や要望などを聞くのですが、それで皆さんと親しくなり、治安の維持に協力してもらうしかありません。それには互いの信頼感が重要な材料となっています。互いに信用しあわなければ何も始まりません。

私は早く一人前の警察官となり、住民の人達に信頼される警察官に一日でも早くなりたいと思っています。そして事件のない平和の世の中を目指し、日々努力していきたいと思っています。

（電気49回卒）



校 友 短 信

土木工学科

◇澤村克司（19回卒、大津市役所、大津市）

河川下水道部に勤務、高度処理施設や合流式下水道の改善等新たな施策にも取り組んでいるところです。情報があれば宜しく。

◇柳沼英治（19回卒、日本工営㈱、金沢市）

昨年7月より転勤で金沢にきております、初めての北陸暮らしです。
同窓の皆様の益々の御多幸を願っております。

建築学科

◇田島達也（9回卒、㈱レーモンド設計事務所、世田谷区）

現在、日本大学建築学科を中心とした「桜建会」の理事並びに会員委員会委員長を工学部OBの一人として活動して居ります。

◇佐伯博章（19回卒、㈱新環境設計、広島県府中町）

昨年久しぶりに郡山を訪ね、母校キャンパスをはじめ、街並・猪苗代・裏磐梯方面の発展に目を見はられました。益々のご発展を心よりお祈りしております。

機械工学科

◇宮石一臣（13回卒、㈱エフ・シー・シー、浜松市）

様々な活動を会報で拝見させていただいております。卒業後35年有余が経ってしまいまして、キャンパスの風景写真を拝見しますと学生時代当時の面影は無くなってしまった様に感じます。私も少々くたびれては来ましたが、引き続き今の会社で元気に仕事をしております。

◇坂井邦貴（16回卒、本田技研工業㈱、宇都宮市）

10年余りの米国駐在から帰国しました。現在は、本田技研工業㈱の四輪品質責任者として品質改革に取り組んでいます。

電気工学科

◇阿部 孝（9回卒、山形市）

訪ねる会と発明協会山形県支部の会合が重なり、事務局長を担っておりますので欠席します。貴会の成功をお祈り申し上げます。

◇坪内昭朗（19回卒、㈱日水コン、市川市）

9月10日より3ヵ月間、上水道建設計画プロジェクトのためベトナムに出張ですので訪ねる会は残念ながら欠席します。東京で、電気19回卒同窓会を計画して欲しいですね。

工業化学科

◇大橋軍次郎（専門部1回卒、平塚市）

全国肢体不自由養護学校退職校長会の総会が、訪ねる会当日に神奈川県で開催され責任者の一人として運営を担当するため欠席致します。

折角の機会ですが誠に残念でなりません。盛会を心よりお祈りしています。

編集委員会からのお願い

校友会事務局へのお便りや、連絡などから、無断で掲載しました。限られた紙面のため、卒業年度の古い方からのお便りを優先させていただきました。ご了承下さい。学生時代の貴重な写真などをお持ちの方は、是非とも会報発行委員会にお貸しいただきたく、事務局までお寄せ下さることをお願い申し上げます。

日本大学工学部校友会会則

第1章 総 則

- (名 称)
第1条 この会は、日本大学工学部校友会（以下工学部校友会）と称する。
- (事務所)
第2条 工学部校友会の事務所を、福島県郡山市田村町徳定字中河原1番地 日本大学工学部内に置く。
- (目 的)
第3条 工学部校友会は、会員相互の親睦を図り、日本大学との関係を密にし、母校工学部の興隆発展に寄与することを目的とする。
- (事 業)
第4条 工学部校友会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
① 会員相互の連絡並びに会員名簿の管理と発行
② 校友会報の発行
③ 親睦会、講演会の開催
④ 工科学部校友会などとの連絡に関する事項
⑤ その他、必要と認められる事業
- (支部等)
第5条 工学部校友会は、別に定める規程により支部を置くことができる。
2 支部が区域とする地域に所在する、工学部校友会名簿に記載されている正会員をもって組織する。
- (県支会及び職域部会等)
第6条 工学部校友会は別に定める規程により、県支会および職域部会等を置くことができる。県支会および職域部会の会員は、前条第2項に準ずる。

第2章 会 員

- (会員の資格)
第7条 工学部校友会の会員は次のとおりとする。
① 正会員は、日本大学工学部（旧称第二工学部）の卒業生並びに大学院工学研究科を修了した者
② 学生会員は、日本大学工学部並びに大学院工学部研究学科に在籍している在学生
③ 親睦会、講演会の開催
④ 工学部校友会の会員の資格は、会費納入のあった者を対象とする

第3章 役員並びに顧問

- (役員の構成)
第8条 工学部校友会に次の役員を置く。
① 会 長 1名
② 副会長 5名以内
③ 幹事長 1名
④ 常任幹事 15名以内
⑤ 幹 事 30名以内
⑥ 監 査 3名
- (役員の選出)
第9条 前条第8条の第①号、②号、③号、④号、⑥号は総会において選出し、第⑤号は会長指名により常任幹事会において決するものとする。
- (名誉会長および顧問)
第10条 工学部校友会に名誉会長および顧問を若干名置くことができる。
2 名誉会長および顧問は、役員総会の同意を得て会長が委嘱する。
3 名誉会長および顧問は、役員総会に出席し意見を述べることができる。
4 顧問は、会長の求めに応じて適切な助言を行うことができる。
- (役員の任期)
第11条 役員の任期は3年とし、再任は妨げない。
2 役員に欠員が生じたときは、常任幹事会にはかりこれを補充することができるが、任期は前任者の残任期間とする。
- (役員の職務)
第12条 会長は工学部校友会を代表し、会長を統理する。
2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した副会長がその職務を代行する。
3 幹事長は会務執行の要とし、会内外の事象を広く深く把握し適切な対応策等を提示する。

- 又、事務局運営の責任者となる。
4 監査は会計財務に監査を行い、その結果を総会に報告する。
5 監査は常任幹事会に出席し、意見を述べることができる。
6 常任幹事は、会務の運営に必要な事項を審議する。
7 幹事は役員総会に出席し、会務について意見を述べることができる。

第4章 会 議

- (総 会)
第13条 総会は、年1回通常総会を開き、必要において臨時総会を開くことができる。
2 総会の議長は、出席正会員の中から選出する。
3 次に掲げる事項は、総会の議決を経なければならない。
① 会則の変更
② 解散に関する事
③ 会費に関する事
④ 事業計画および収支予算に関する事
⑤ その他規定の定める事項
- (常任幹事会)
第14条 工学部校友会に常任委員会を置き、会長が議長となる。
2 常任幹事は、会長、副会長、幹事長、常任幹事をもって構成し、随時開催する。
3 常任幹事会は、会務の執行にあたる。
- (役員総会)
第15条 工学部校友会に役員総会を置き、会長が議長となる。
2 役員総会は、会長、副会長、幹事長、常任幹事および幹事をもって構成する。
3 役員総会が随時召集し、構成員の過半数の出席により成立し、出席者の過半数により決する。

第5章 運営委員会

- (運営委員会)
第16条 工学部校友会に、各種運営委員会を置くことができる。
2 委員会は次の各号とする。
① 総務委員会
② 財務委員会
③ 会報発行委員会
④ 会員管理委員会
⑤ 特別委員会
第①号から第④号までの委員会は常設とし、第⑤号の委員会は、工学部校友会の事業運営上特に会長が必要と認めたとき設置することができる。
3 委員会の委員は、役員および会員の中より会長が委嘱する。
4 第①号ならびに第②号の委員長は、副会長の中から会長が指名する。但し、第③号、④号、⑤号の委員長は、委員間の互選により選任する。
5 委員会の組織および運営は、別に定める規程による。

第6章 会 計

- (会計年度)
第17条 工学部校友会の会計年度は、毎年4月1日より始まり翌年3月31日に終わる。
- (経 費)
第18条 工学部校友会の経費は、次の各号をもって充てる。
① 入会金
② 終身会費
③ 賛助会費
④ 寄付金
⑤ その他の収入
- (会 費)
第19条 入会金、終身会費を会費と呼び、その額は総会において定める。
2 工学部校友会会則・第4条の内、第③号及び⑤号に係わる会費を、そのつど徴収することができる。
- (寄付金)
第20条 工学部校友会は、寄付金等を採納することができる。
- (財 務)
第21条 工学部校友会の財務は、別に定める規程により処理する。

- 第7章 法人役員および日本大学校友会役員
 (役員の推薦)
 第22条 工学部校友会は、学校法人日本大学並びに日本大学校友会の役員の候補者を推薦することができる。
 2 候補者の推薦は別に定める規程による。

- 第8章 日本大学校友会会費
 (日本大学校友会会費)
 第23条 工学部校友会は、日本大学校友会が定める会費を納入する。

- 第9章 事務局
 (事務局)
 第24条 工学部校友会の事務は、会長の命を受け工学部校友会事務局が処理する。
 2 事務局の統括は幹事長があたる。
 3 事務局に関する規程は別に定める。

- 第10章 賞 罰
 (表 彰)
 第25条 工学部校友会に特別の功労があった個人並びに団体に對して、表彰することができる。
 2 表彰に関する規程は別に定める。

- (除 名)
 第26条 工学部校友会の会員が次の各号に該当したときは、常任幹事会の決議により除名することができる。
 ① 日本大学の名誉を傷つけ、または校友としての品位を著しく害する言動があったとき
 ② 工学部校友会の秩序を乱したとき
 ③ 故意または重大な過失によって日本大学および工学部校友会に損害を与えたとき

- 第11章 雑 則
 (規程の制定)
 第27条 本会則の施行に必要な規程および工学部校友会の運営並びに管理に必要な規程は、常任幹事会の議決を経てこれを定める。
 2 工学部校友会の会則を改訂したときは、日本大学校友会に届けるものとする。

- (会則の改訂)
 第28条 本会則は總會において出席会員の過半数の賛意がなければ改訂することができない。

付 則

- ① 本会則は、昭和43年4月1日より施行する。
- ② 本会則は、昭和45年4月19日より改訂施行する。
- ③ 本会則は、昭和46年4月18日より改訂施行する。
- ④ 本会則は、昭和47年4月23日より改訂施行する。
- ⑤ 本会則は、昭和49年4月21日より改訂施行する。
- ⑥ 本会則は、昭和50年4月20日より改訂施行する。
- ⑦ 本会則は、昭和51年5月23日より改訂施行する。
- ⑧ 本会則は、昭和55年4月26日より改訂施行する。
- ⑨ 本会則は、昭和56年4月18日より改訂施行する。
- ⑩ 本会則は、平成2年4月21日より改訂施行する。
- ⑪ 本会則は、平成8年4月20日より改訂施行する。
- ⑫ 本会則は、平成13年4月28日より改訂施行する。

日本大学工学部校友会会則改訂が平成13年4月28日より施行致しました。それに伴って電気工学科16回卒業、伊藤義人氏と工業化学科16回卒業の中野伍朗氏の2名が新しく副会長として誕生しましたので、ご紹介致します。



伊藤 義人



中野 伍朗

CAMPUS

名残惜しい兵舎の取り壊し

日本大学第二工学部が昭和24年5月に入学式を挙行されて以来、現日本大学第二工学部の発展過程を、見届けてくれた兵舎・37号館、通称「旧道場」は昨年度末に取り壊しの運命となりました。工学部の戦前戦後の風雪に耐えた兵舎は、ボクシング部、美術部、鉄道研究会および古武道部の活動拠点として利用されてきました。ここで培われた精神修養および強靱な肉体を形成し社会に巣立った校友諸氏は、懐かしさを回



想していただきたく、ここに写真を掲載致しました。古武道部が最後の使用者でした。

昭和47年から、古武道同好会は市内の武徳殿での練習から昭和56年念願の学内の道場使用が許可され部員一同満足感を得たものです。それ以来道場使用時には真冬に限らず裸足で入り神棚に拝礼し床の損傷に注意を払い清掃管理に努めていた当時が偲ばれます。練習場所に苦勞し、その時代を乗り越えた校友の活力は、荒川武仙師範の指導を仰ぎ練習の鍛練のみならず精神修養の指導が社会人育成として最大の成果を得た事を確信している。37号館は心に宿る。

日本大学工学部校友会各位

平成14年3月1日
日本大学工学部校友会会長 佐藤 光 正

平成14年度通常総会通知

本会会則第15条により、日本大学工学部校友会平成14年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙とは存じますが、先輩・後輩お互いにお誘い合わせの上、多数ご出席下さいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日 時 平成14年4月20日(土) 14時より
2. 場 所 日本大学工学部 創立50周年記念館（ハットNE）
3. 議 題 (1)平成13年度会務報告および決算報告
(2)平成14年度事業計画および予算審議
(3)役員の改正
(4)その他
4. 懇親会 総会終了後、情報棟8階のレストランにおいて大学関係者を迎えて懇親会を開催

以 上

第22回 母校を訪ねる会

- 日 時 平成14年10月13日(日)
- 場 所 日本大学工学部 創立50周年記念館
を予定
- 対 象 第10回卒業生（昭和37年3月卒業）
第20回卒業生（昭和47年3月卒業）
第30回卒業生（昭和57年3月卒業）
専門部卒業生

今回は上記年度の卒業生が母校訪問の主たる対象となります。

また、上記年度は主たる対象年度ですので、この年度以外の方々は参加できないということではありません。対象年度の当該に関わらず、是非とも多数ご来校下さり、大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や級友との再会に懐かしい一時をお過ごし下さい。



校友会報 第65号

- 発 行 所 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
- 発 行 部 数 45,500部
- 発 行 日 平成14年3月1日
- 発行代表者 校友会長 佐藤光正
- 編集責任者 編集委員長 石井和樹